

### Ⅲ 協力団体報告編 凸版印刷株式会社 トータルメディア開発研究所

## 2・被災文化財等救援事業におけるトッパングループの取組

凸版印刷株式会社 トータルメディア開発研究所

凸版印刷およびトータルメディア開発研究所は、「被災文化財等救援事業」、いわゆる文化財レスキュー事業の協力団体として、平成23年夏より石巻市立石巻文化センターの民俗資料約3,000件を、凸版印刷の仙台事業所にて預かり、共同での簡易目録作成作業に取り組んだ。

トッパングループとして本活動に参加した経緯や実績、作業を行う中で発生した課題および提言をここに記載する。関係する方々に幅広い視点で内容を検証いただき、少しでも将来に役立てていただければ幸いです。

文化庁より「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）について」との通知が発表されてからそれほど時を置かず、トッパングループは本事業への参加を表明した。被災地へ向けたさまざまな支援活動が行われる中、トッパングループが「文化財レスキュー事業」へ参加した理由は、主に3点ある。まず、旧来より文化財に関わる事業、たとえば文化財デジタルアーカイブ事業や、文化施設の企画・施工・運営事業（トータルメディア開発研究所）に取り組んでおり、芸術・文化の担い手と自認していること。2つ目として、震災により、宮城県、福島県、茨城県にあるトッパングループの工場も数ヶ月の就業停止に追い込まれる被害を受け、被災当事者としての高い復興意識があったこと。そして最後に組織的な支援活動ができること。製造業としての日々の生産活動の中で培った工程設計能力や作業遂行能力が、文化財レスキュー活動の中で役に立つのではないかと考えたのである。文化財とともに復興のお手伝いができれば、トッパングループとしてはたいへん光栄なことである。時を前後して、「文化財レスキュー事業」に対して、宮城県石巻市の石巻文化センターから被災文化財の救援要請があり、石巻文化センターの文化財の救出が開始された。

さて、文化財レスキューの目的は「被災した文化財を緊急に保全するとともに、損壊建物の撤去に伴う文化財の廃棄、散逸を防止する」ことである。レスキュー活動が始まった4月から5月当初は、被災現場から泥をかぶった文化財を救出し、応急処置をおこなうために、少数精鋭の有資格者（学芸員に類する方々）の小集団活動、例えばNPO、美術系大学生のボランティアの方々が機動力を活かした対応を行い、効果をあげていた。この段階では、トッパングループがトラックの提供をし

たとしても、それほど効果的な支援とはならなかったが、時間の経過とともに、石巻文化センターから救出した文化財の管理が問題となってきた。気温や湿度上昇とともに日に日に劣悪な環境へ変化していく資料の保管場所、救い上げた文化財を応急処理・分散保管している間に、次第に資料自体の一元管理ができなくなってしまったこと、資料散逸の危険が迫ってきたのである。被災当時、石巻文化センターは資料データベースを作成途中で、そのデータを保存していたパソコンは水没、破損し、わずかに残ったCDや紙に記録されていた資料台帳からでは、どのくらいの資料が被災したのかを把握することが困難な状況であった。「散逸防止」の観点から、被災後回収された資料の総数・状況などを短期間にデータベース化し、速やかに被災状況を把握し、広く情報の共有化をはかる環境を整えることが急務となった。凸版印刷は仙台に工場を有し、比較的設備の整った環境での資料一時保管が可能な状況であったこと、その環境の中で、資料散逸を防ぐためのデータ記録管理作業が可能であったことから、「資料保護」「散逸防止」「作業者の安全確保」の観点より、7月、石巻文化センターの被災した民俗資料を受入れ、記録管理を支援することを決定した。文化財レスキュー事業への協力の開始であった。

仙台工場は石巻文化センターから約50キロ、車で1時間強の仙台市泉区に位置する。本事業に取り組むにあたり、工場内事務所の一室を資料保管および作業専用ルームとした。広さ150平方メートル、保管用の5層スチールの棚を設置する（注）と、最大約700箱の資料の受入が可能である。独立した施錠



スチール棚の設置と資料保管

設備、空調設備、電源、ネットワーク環境が敷設されており、セキュリティ面を考慮し、4重のチェックを超えなければたり着けない事務所深部の部屋を選択した。当然、本事業に係わる者以外は入室禁止である。事務所内の一室ではあるが、預かった文化財が直接床面に触れないようにブルーシートやパレットを敷き、夏から秋にかけては昼間27℃固定で空調を稼働させることで、可能な限り資料保護に配慮した。また、資料を選び入れるにあたり、東京文化財研究所の専門家に部屋内の環境を視察確認いただき、民俗資料の一時保管場所としての承諾をいただいた。しかし通常の博物館・美術館の保管環境から考えると十分な環境とはいえ、あくまでも劣悪な保管環境からの「一時避難場所」という位置づけとしての認定である。

この部屋内に簡易スタジオを設営し、パソコンを設置し、専属の人員を配置して、資料の記録から撮影、登録、再梱包までの一連の作業を実施した。作業期間は8月17日から10月28日まで、作業要員は常駐管理者1名、作業員4名、その他にデータベース管理者を東京側に1名配置し、50営業日で合計3,115件の記録を行った。結果として、1日平均で約60件、登録したこととなる。また、仙台工場内の専用ルームは、全ての民俗資料を一度に保管するに十分な広さはなかったため、6回にわたってのトラックでの資料搬入、途中からは搬出（石巻文化センターへの返却）を行った。複数回にわたる資料の搬出入の際には、必ず、文化庁、宮城県、東京文化財研究所等、被災文化財等救援事業メンバーに立ち会っていただいた。



簡易スタジオの設営

実際の登録処理は、未登録資料を開梱するところから始まる。未登録資料と登録資料は混ざらないように異なる区画に保管しているが、作業員は、未登録資料置き場からオリコン1箱を選び、開梱場所へ移動させる。未登録資料を箱から出して確認し、セット組みし、あらかじめ決められた項目の情報を「資料カード」に記録し、写真を撮影し、再梱包後、箱へ戻す。この作業を繰り返し、箱内の全ての資料の記録が終わったところで、

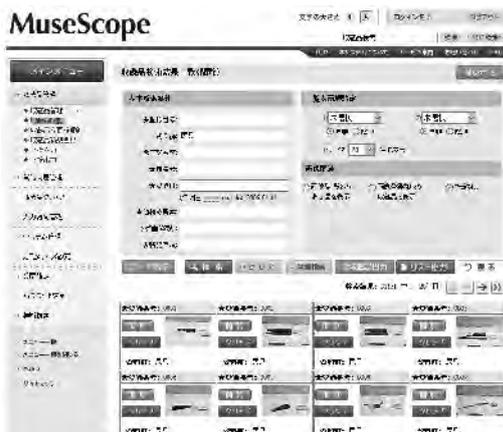
箱ごと「登録済」資料の保管場所へ移す。混乱を避けるため、作業は箱ごとの単位で行うことを基本とした。これらの作業と平行して、1名専属で、手書きの「資料カード」をパソコンでデータベースに登録する作業を行い、更に、遠隔地でデータベース管理者による登録データの確認、修正を経て、被災目録を作成していった。作業員ごとに役割を決めての流れ作業である。

<第2種> 文化財レスキュー 資料カード

資料総括			
箱番号	資料群	品名	
製作番号	被災前保管場所		
品別	被災後 保管場所		
MAITRIL-00輸入日	被災後 保管期間		
写真日	備考		
石巻品目印			
資料基礎情報/資料名			
資料名			
画像ファイル情報			
画像①	画像②	画像③	資料ID①
画像④	画像⑤	画像⑥	資料ID②
画像⑦	画像⑧	画像⑨	資料ID③
資料基礎情報/属性			
登録番号		登録日	
資料基礎情報/材質			
主材質 (動物素材・植物素材・金属素材・石/土/ガラス・人工素材・その他)			
付属品			
資料基礎情報/登録者			
登録者氏名			
登記事項			
特記事項			
登録資料情報/サイズ			
【幅】		【mm】	
【奥行】		【mm】	
【高さ】		【mm】	
【厚さ】		【mm】	
【重量】		【g】	
保管情報			
登録後保管場所①	登録後保管場所②		
登録後保管場所③	登録後保管場所④		

資料カードのフォーム

仙台工場のルーム内には5名が常駐していたが、管理者1名は、トータルメディア開発研究所の学芸員資格を有する従業員が担い、作業員への文化財の取扱指示や記録管理を統括した。作業員4名は凸版印刷の仙台工場の従業員であり、うち1名は専属カメラマンであった。作業員4名は日常的に文化財に触れている人員ではないが、製造業作業員として身に付けた物品に対する慎重な取扱、着実な作業手順をもって作業に取り組んだ。今回作成したのは資料散逸を防止するための簡易データベースであり、緊急性を要するという特性上、このようないわば素人による取扱いとならざるを得なかったが、結果として、効果的な運用ができたと考えている。津波に流されてしまったことで資料はバラバラになり、また資料であるか不明なものも混在していたが、判断に迷うものは別枠として登録し、資料タグのみ回収されたものはタグのみで登録を行う、等、作業上のルールをあらかじめ取り決め、作業員が効率的に処理を進めることができるようにした。資料の記述項目については、専門家の指導のもと、民俗資料管理に必要な項目を定義したが、不慣れな者でも迷いなくスピーディに記述していくことができるよ



MuseScopeによる目録登録

う、極力、選択方式とする等の工夫をした。また、被災品簡易目録データベースとして、凸版印刷の博物館・美術館向け収蔵品管理 ASP サービス「MuseScope」を利用したが、これは目録登録後インターネット経由でどこからでも登録・確認することが可能であり、石巻文化センターの民俗資料の簡易データベースがいずれ将来的に正目録となっていく過程で、様々な専門家の目を経て完成されていく際にも、その利便性の高さが効果的であろうと判断したためである。本活動の中でもデータベース管理者として1名の担当者を置き、データ検証を担ったが、この点でも、データベースが遠隔地から操作可能であったことは利点であった。また、トッピンググループでは、従来から様々な業界のデータベースを構築、運用している。石巻文化センターの民俗資料に簡易目録作成業務において、トッピンググループがデータ管理業務の経験や知見を有していたことも有効に働いたと考えている。

10月末、凸版印刷仙台工場にお預かりした石巻文化センターの民俗資料、3,115件の簡易目録登録は完了した。資料自体をお預かりせず、目録記録データのみ登録した分とあわせて、現在、4,074件の資料データが登録されている。しかしこれらの資料のほかにも、他の場所で一時保存されている絵画や彫刻、考古資料、古文書、毛利コレクション等の資料が存在し、それらの資料の情報は個別に管理されている。これらの資料のデータが一元管理されて初めて、石巻文化センターの被災資料の簡易目録が完成すると考えている。そして、それを地元の専門家がメンテナンスし、正目録へ進化させていき、最終的には、通常の施設としての公開、研究活動につなげていく基盤として活用されていくことを、トッピンググループとして願っている。

さて、文化財レスキュー活動で直面した課題をいくつか挙げてみたい。

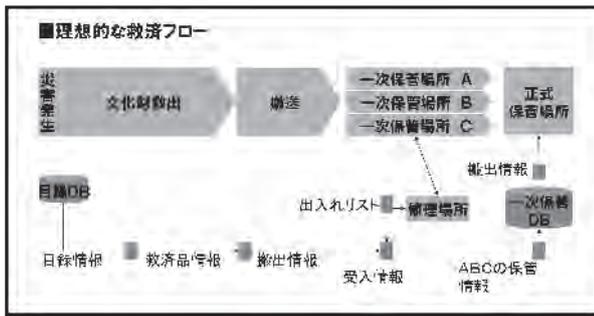
1点目として、虫が発生したこと。夏ごろに羽虫、その後チャタテムシの発生が確認された。簡易的な保管環境にならざるを

得なかったことと合わせ、運び込まれた資料の中には、津波をかぶり、塩や泥に汚損されているものも少なくなかった。いずれも専門家による洗浄、乾燥後に運び込まれたものではあるが、非常時には資料自体に燻蒸などの対応はできないことから、こういった民俗資料保管環境において、今後も虫の発生は避けられないと思われる。むしろ虫の発生はあるものとして想定し、あらかじめ発生時における監視・管理・洗浄などのバックアップ体制を組んでおくことが有効と考える。

2点目として、機械的に判断できない資料の取り扱いについてである。個人情報を含む資料、粉碎・混入した資料、そもそも文化財であるのか不明な資料など、実際の作業のなかで様々な取り扱いに迷う資料が散見された。本来このような資料は、有識者による判断を経た後、目録として登録することが望ましいが、非常時には有識者が常時立ち会えるとは限らない。したがって事前に不明事象をパターン化しておき、そのルールに応じた取扱をし、のちに専門家が検討しやすいように保管しておくことが有効と考える。

3点目は、正確な情報連携を行うことの困難さである。今回、石巻文化センターは目録自体も被災し、抛り所となる情報が不在であった。資料を移動させる作業のなかで記録を取っていたものの、要所で現物資料と情報の関係が曖昧となった。救済した資料を記載した「救済リスト」を作成しても、所蔵していた資料のうち何が残されているのか、救済した資料が本当に石巻文化センターの資料であるか確認できない。また、資料を受け入れた際に「受入リスト」を作成しても、手書きのリストが受け渡されていくうちに、人間作業による記述ミス、梱包ミスが発生し、救済リストと現物の付け合せに難航した。抛り所となる目録をできるだけ早いタイミングで作成し、次工程にいかにか情報を正確に受け渡していくのかを考える必要があるのではないだろうか。

今回文化財レスキュー活動の一端に携わって感じたのは、今後日本のどこかで再度、震災が発生し、文化財が被災した際には、レスキューの過程で救済資料と情報を正確に連携させることが、救済資料の保全と散逸を防ぐことにつながるのではないかと考えている。災害発生後、文化財を救出、搬送、一時保管、修復、そして最終的に新たな保管場所へ格納していくまでのステップの中で、基本となる情報は初めの目録である。そこに救済品の情報を付加し、搬出・受入れ時に記録をとり、最終的に保管するまでの一連の流れの中で、どれだけ正確な情報を実物と結び付けられるかが、文化財を守り、将来に伝えるための大きなポイントになると考えている。災害が起こる前、平時から資料の簡易目録を整備しておくことが有効であろう。また緊急時にはスピードを優先する必要があり、レスキュー事業に従事するのが専門家のみにはならないであろうことを考えると、ある程度、作業効率も考慮する必要があるのでは



本事業への取り組みから得た救済フローの理想案

はないだろうか。本事業を通じて培ったフローや取り扱いルール、課題といったものを後世に伝え、文化財を取り扱う一定のレベルを維持しつつ、協力者を広く募ることも、今後文化財を救済していく中で、有効と考えている。

最後となったが、本事業に協力した立場として心より、被災地の一日も早い復興と、地域の文化財がその抛り所のひとつとなることを願っている。

注 株式会社 岡村製作所より提供された